

令和7年度

特定非営利活動法人 光の岬福祉研究会

ひかりの岬こどもデイサービスセンターによる
自己評価調査報告書

特定非営利活動法人 光の岬福祉研究会

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ひかりの岬こどもデイサービスセンター		
○保護者評価実施期間	令和8年1月6日		令和8年2月6日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	24	(回答者数) 20
○従業者評価実施期間	令和8年1月6日		令和8年1月17日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月20日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・支援の質・専門性の高さ	・こども一人ひとりの特性や発達段階、家庭状況に応じた個別支援計画を作成し、計画に沿った支援を継続的に実施することを意識している。 ・活動プログラムについては固定化しないよう工夫し、長期休暇等には外出活動や体験活動を取り入れるなど、こどもが意欲的に参加できる機会づくりを行っている。	・個別支援計画に基づく支援の質をさらに高めるため、職員間でのケース検討や振り返りの機会を定期的に設け、支援内容の標準化および質の向上を図る。 ・活動プログラムについてもこどもの興味・関心に応じて内容の見直しや工夫を重ね、こどもが意欲的に参加できる環境づくりに取り組んでいく。
2	・職員の共感力・人柄の良さ	・職員間でこどもの様子や支援内容を共有し、共通理解を図りながら支援の質の向上に努めている。 ・一緒に遊び、悩み、考えることを大切にしている。 ・こどもが安心して通所できるよう、職員は共感的な関わりを心がけ、肯定的な声かけや環境づくりを意識している。	・こども一人ひとりの小さな変化や成長を捉え、職員間で共有する。
3	・保護者との信頼関係・コミュニケーション力	・日々の連絡帳やLINE等を活用し、保護者との情報共有を丁寧に行うことで、家庭と連携した支援を意識的に行っている。	・お子さんの状態を保護者へも丁寧に伝えることで、支援の成果を実感できる取組を進めていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・地域交流・外部交流	・地域交流の機会が少ない ・そもそも実施していても「伝わっていない」 ・保護者が内容を知らない	・地域の児童館や放課後児童クラブ等との交流機会を検討・実施し、地域とのつながりを意識した活動の充実を図っていく。
2	・防災・事故対応の「周知・見える化」 ・保護者同士・兄弟支援	・保護者に伝わっていない ・記憶に残っていない ・見える形になっていない ・ピザ作り体験を通しての保護者間の交流などは実施してみたが、参加者が限定的で、未参加者には「やっていないように見える」	・防災・事故対応・感染症対策等の安全対策について、保護者への周知方法を工夫し、通信やLINE等を活用して「見える化」を進めることで、より安心して利用していただける環境づくりに努める。 ・保護者同士やきょうだい児向けの交流機会についても、年間予定の周知や参加しやすい内容・時間帯の設定等を工夫し、家族支援の充実を図っていく。
3	・職員自己評価の結果から、利用児の特性に応じた手厚い支援を行う上で、職員配置の充実が課題として挙げられた。 また、建物のバリアフリー化や活動場所の構造化、安全面・衛生面への配慮など、物理的環境への課題もあげられた。	・人員配置の充実に向けて求人を行っているが、応募者数が少ないことや、人件費に係る財政的制約により、十分な人員確保が難しい状況がある。 ・施設のバリアフリー化や設備改善については、必要性を認識しているものの、改修に係る費用や予算上の制約により、段階的な対応とならざるを得ない状況がある。	・ピーク時間帯の人員配置の見直し(送迎前後・活動開始直後など) ・非常勤・短時間職員の活用検討 ・業務の切り分け(記録・準備の分担ルール化) ・滑り止めマット・コーナガード設置 ・活動エリアの色分け・掲示(「工作ゾーン」「運動ゾーン」など) ・月1回の簡易清掃+換気・除湿(除湿機・サーキュレーター活用) ・歩行不安定児の動線見直し

公表

事業所における自己評価結果

事業所名 ひかりの岬子どもデイサービスセンター

公表日 令和8年2月28日

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5	1		
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	2	3		利用児の特性に応じた支援をする上で、職員の人数が足りていないように感じる時がある。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	2	4		・建物自体がバリアフリーになっていない ・活動と場所の関係がややふやになっている
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	2	4		・歩行が不安定な利用児に対しては、安全面をもっと考慮したい ・湿気が多く、カビが多いため
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5	1		
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	5	1		
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	0		
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	1		
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	4	1		
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6	0		
適切な支援の提供	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6	0		
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	6	0		
	13 放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5	1		
	14 放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6	0		
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5	1		
	16 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6	0		
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6	0		
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6	0		

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	6	0	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5	1	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5	1	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6	0	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6	0	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	6	0	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	6	0	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5	1	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5	1	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	5	1	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	5	1	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	6	0	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	3	2	・外部の研修をもっと多く取り入れたい
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	1	5	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	4	2	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6	0	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	1	4	・家族委員会を生かしていきたい
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6	0	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6	0	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	6	0	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6	0	

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	4	2		
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6	0		
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	5	1		
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6	0		
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6	0		
非常時等の対応	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	6	0		
	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6	0		
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6	0		
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	6	0		
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6	0		
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6	0		
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6	0		
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6	0		
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6	0		
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	6	0		